

第3回羽生市タウンミーティング内容（概要）

- 1 開催日時 令和8年8月22日（土）
午前10時開会（午前11時15分閉会）
- 2 会 場 中央公民館 多目的ホール
- 3 テー マ 「これからの羽生を語ろう！
私たちがつくる魅力的なまちづくり」
- 4 意見交換 担当職員より「3 テーマ」についての説明に続き、
「（1） どんなまちにしていきたいですか」
「（2） （1）を実現するための方法とは」
について、参加者との意見交換を行いました。

（1） どんなまちにしていきたいですか

ア 野生動物（アライグマ・ハクビシン）による被害と感染症対策

高齢者世帯を中心に、屋根裏にアライグマやハクビシンが住み着く被害が多く発生している。感染症の問題も懸念されるが、一般市民にとって対策は難しいため、市が主体となって市民を守ってほしい。

【市長答弁】

市民の皆様が困っていらっしゃる相談についてはしっかりと把握している。寄せられた実態を庁内で共有し、実効性のある対策に向けて取り組んでいきたい。

イ 高齢者の免許返還に伴う移動支援・交通環境の整備

高齢により今後運転免許証を返還する予定である。免許返還後も通院等で不便が生じないように、市内の循環バス等による移動しやすい環境を整えてもらいたい。

【市長答弁】

移動しやすいまちづくりに関するご相談は高齢の方から非常に多く寄せられている。若い方からも「自転車のみの移動はつらい」という声があり、年齢を問わず切実な課題であると認識している。移動しやすいまちづくりは市政の最重要項目として取り組んでいく。

ウ 少子化対策としての結婚支援・出会いの場の創出

結婚しなければ子どもの数は増えない。専門知識やノウハウを持つ「プロ」を活用した出会いの場を、市として支援・提供してほしい。

【市長答弁】

羽生市においても出生率は低い状況にある。出会いの場の創出として「街コン」の開催などを取り入れるのはどうかと考えており、前向きに検討していきたい。

エ イベント開催による市のPRとシティプロモーション

音楽フェスを開催することは、市の大きなPR（魅力発信）につながるのではないかと。

また、羽生市出身のプロ野球選手等による野球教室の開催なども魅力的である。

【市長答弁】

市のPRにつながるようなイベントとして、どのようなものが効果的か、皆様からのご意見も参考にしながら考えていきたい。

オ 高等学校の生徒数減少と地域貢献のアピールについて

（高等学校PTAより、）高等学校の生徒数が減少傾向にある。学校として市へさまざまな形で貢献しているものの、そのアピールがまだ足りないと感じている。

【市長答弁】

市内に5校ある高校の生徒数減少は、市としても大きな問題として捉えている。一方で、ふるさと納税へのご協力や、生徒が育てた野菜を学校給食へ提供していただくなど、日頃から様々な形で地域との交流を深めていただいていることに感謝している。

カ 中央公園の整備と維持管理・防犯面の改善について

中央公園について、雑草が多く、イベントも開催されていないため、防犯上もあまり良くないと感じている。

【市長答弁】

中央公園については、雑草のほかにも、冬の落ち葉やトイレの汚れなどについても同様のご意見をいただいている。

キ 農業の持続可能性と担い手確保・支援について

農業者が減少している現状がある。農政課単体にとどまらず、JAとの協

力を視野に入れてもらいたい。また、農業用機械の貸与などを行い、農業が持続できる仕組みを考えてほしい。

【市長答弁】

市の面積の4割が田畑を占めており、後継者不足は大きな問題である。持続可能な農業を目指すため、スマート農業の推進に取り組んでいる。今後は農業に特化したタウンミーティングなども開催し、当事者の皆様の意見をさらに直接聞いていきたいと考えている。

ク 国道122号（旧道）の交通騒音と生活環境の安全確保について

国道122号（旧道）を通行する車の騒音問題に悩まされている。北部幹線の利用推奨や、騒音を軽減するための緩衝材の設置などを通じて、川俣地区の安全と静穏な環境を守ってもらいたい。

【市長答弁】

市民の皆様が安心して暮らせるような、静かな環境づくりを目指していきたい。

ケ 市内の歴史を活かしたまちづくりへの協力について

市内の歴史を活かしたまちづくりとして「タイムスリップまち歩き」に参加した。今後も市民の一人として、こうした取り組みに積極的に協力していきたい。

【市長答弁】

地域の歴史や資源を活かした取り組みについて、ぜひ今後ともご協力をよろしくお願いしたい。

コ 子育て世代への支援（絵本読み聞かせ等による親子の交流）

小さい頃からの親子の交流を育む機会が大切である。子育てサロンなどで絵本の読み聞かせの機会があれば、保護者の子育ての安心感にもつながるのではないか。

【市長答弁】

親子のふれあいや交流の機会づくりは非常に大切であると感じている。

サ 買い物弱者・交通弱者への支援（持続可能な移動手段の確保）

市内は車社会であり、運転できるうちは良いが、今後のことを考えると買

い物弱者や交通弱者への支援が必要である。

【市長答弁】

現在、移動スーパーやのりあいタクシーの導入・運行を進めているが、市民の皆様への周知がまだ十分ではない部分もあり、運用面での課題もあると認識している。

シ 若い世代が主体的に活動・参加できるまちづくり

日常生活の中で若い人に会う機会が少ないと感じる。若い世代が主体的に活動・参加でき、生活を楽しめるまちにしてほしい。

【市長答弁】

羽生市の未来を考える上で非常に大切なご意見である。子育てしやすいまちは若い方が住みやすいまちであり、子どもが増えることで活気あるまちにつながると考えている。

ス 他自治体の事例に学ぶ商店街の活性化と賑わいづくり

「わくわくしたい」という思いがある。羽生市と人口推移が似ている他市のまちを見学した際、20代・30代の若い世代、商工会、行政が一体となって商店街をつくり、外部から4割、地元から6割の出店を実現していた。羽生市でも同様の形が実現できたら非常に面白いと考えている。

【市長答弁】

若い世代や商工会、行政が連携して新しい挑戦をしている大変素晴らしい事例のご紹介をありがとうございます。羽生市においても、市民の皆様の「わくわくする」アイデアや主体的な動きを活かし、活気ある商店街や賑わいづくりに向けて前向きに研究・検討していきたい。

(2) (1)を実現するための方法とは

これまでの意見を実現していくため、以下のような手法や取り組みを取り入れてはどうか。

ア AIの活用による、まちの課題や不足している要素の分析。

イ 子どもたちが安心できるまちを目指した小中学校の施設や環境の整備。

ウ 中小企業の誘致の推進。

エ 交通の要所としての羽生市の発展を見据え、市単独では困難だが、村君地区への空港設置といった大局的な構想。

オ 以前駅前で開催されていた「植木中心の市」を今風にアレンジして復活させること。

カ 子育て支援や高齢者支援において、市民の皆様の協力・協働を得る仕組みづくり。

【市長答弁】

実現の可否だけに囚われず、まずは市民の皆様の「こうしたい」という熱いご意見をお聞きすることが非常に大切であると考えている。

行政（市役所）だけでできることには限界もあるため、市民の皆様と力を合わせ、みんなで一緒にまちづくりを進めていきたい。

市としても、こうした取り組みや魅力を伝えていくため、情報発信の強化に努めていく。